

平成 24 年 12 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、悪いと感じている人が、11月より減少している。小売業では、寒波にも関わらず、前年同月比でプラスとなったとの報告もあるが、地域によっては百貨店の閉店発表以来、低調であるとの報告もある。建設業では、公共工事は依然として低調との報告である。景気は、一部で若干回復傾向にあるものの、依然として厳しい状況が続いており、新政権による景気回復策に期待する声が多い。

山口県の主要指標 DI 値（平成 24 年 12 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、**好転：2.5%** **悪化：45.0%** **DI 値：▲42.5%** ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、**増加：12.5%** **減少：40.0%** **DI 値：▲27.5%** ポイント







収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、**好転：6.3%** **悪化：43.8%** **DI 値：▲37.5%** ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 24 年 12 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲66.7	▲50.0	▲33.3	▲100.0	▲50.0	▲55.6	▲50.0	▲56.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
▲40.0	▲44.4	▲50.0	▲15.4	▲20.0	▲57.1	▲33.3
						

全体
▲42.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	クリスマスケーキは全体的に低調であった。	パン・菓子製造業
	11月度は▲9.0%と大幅に売上減少、シケによる商材不足に悩まされた。また県外客の足が落ちてきている。12月度は昨年同期比▲2.5%で確定。年末年始7日間[12/27～1/03]は過去最高だった昨年度を10%程度上回っている。東京の合同出版から11月末に全国発売した新刊「道の駅/萩しーまーとが繁盛しているわけ」が販売好調。アマゾンブックスの地域活性化部門でもランキング7位。	水産食料品製造業 萩市
	先月と変わらず資材関係の価格が上がり困っている。また食品関係原料の供給不安や価格高騰などの問題が大きくなってきている。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	平成24年の景気はよくなかったが、平成25年は景気が良くなるように期待し、頑張りたい。	帆布製品製造業
	先月と状況は変化なく、来春物の受注が低調で厳しい。組合員の発注元が、国内生産を中止するかどうか検討しているため、来期の存続が危ぶまれる企業があり心配しているが、少なくとも受注量は減ると思われる。政治は経済を立て直すと楽観的に見えますが、一旦海外にシフトした製造業は簡単には回帰できないし、まだまだ今の円相場では太刀打ちできない状態で、工場閉鎖は止まらないと思われます。少々の円安では国内回帰は難しい。厳しい年明けになりそう。	下着類製造業
	10月～11月の受注は少なかったが、12月中旬頃より春物の受注が増え始めている。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	新設住宅着工戸数にやや増加傾向が伺える。木材価格は依然として前年を下回っている。	製材業・木製品製造業 山口市
	公共事業等が出てるが、短納期・高品質等の問題があり受注できていない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	採算無視の受注が続いている。過度の価格競争が事業所の体力を消耗させ、業界全体を疲弊させている。そこで、11月20日に山口県会計局に、印刷物の一般競争入札について「最低制限価格制度」導入の要望書を提出し、12月19日の山口県議会で可決承認され実施が確定した。1月に説明会が行われ、早ければ2月からの実施となる予定である。	印刷 下関市

	年末もあまり忙しくなく、早々に大掃除を始めた印刷会社も少なくなかったと聞いている。 来年にも期待も出来ず、正念場の年を迎えそう。	印刷 山口市
窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材117%、路盤材137%、再生材102%、全体では120%。前年度に比べれば出荷数量も増えているが、年末の一時的なものだと思われる。砕石同業者の倒産など状況は厳しい。	砕石製造業
	出荷量は前年同月比、前月比とも、それぞれ107%、110%と増加。これは、前月と同様に中部(116%)、岩国(185%)、大島(201%)地区の出荷量の前年同月比増によるもので、他の3地区は低調であり、全県的な復調には至っていない。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。価格も安定して推移している。	生コンクリート製造業
	組合員の多くに元気が無い。平成25年に期待している。	石工品製造業
	昨年、組合名を「萩焼卸・小売商協同組合」から「萩焼協同組合」に名称変更した。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	雇用調整を実施しているところがある。	一般機械器具製造業 周南市
	業界の景気は、平均すると依然として低迷の状況が続いている。12月の政権交代の機運が、為替相場(円安)・株式(高値傾向)に反応して、12月は当組合の中で若干、景気の良し悪しの差が見受けられた。1月以降の引き合いはあるが、受注に結び付くかどうかは不明である。	一般機械器具製造業 防府市
	中国経済の悪化に伴い、平成24年春先より、半導体を中心に急激に悪化し、工作機械の設備投資関係の落ち込みが激しく、一昨年の同月比で50%以上の受注減となった。新政権による経済の再生を期待する。	一般機械器具製造業 宇部市
	前月と同推移で、売上高は微増。	
	金型製造関係の生産状況は、やや好調な動きが続いているが、11月度に比べれば若干落ち着いた状況。12月の金型受注は、中旬以降に確定し、来年1月・2月の仕事の確保は何とか出来ている。国内動向は、見積もりの依頼は多く有るが、なかなか価格、納期は厳しい状況。海外向けは、中国(日系)からの特殊金型(成形機とのセット受注)の受注が通年して続いたため何とかしのげた感じだが、中国が今後どこまで伸びて行くのか、先々不安要素が多い。来年以降は、インドネシア・インド・タイ・メキシコ・その他を含め、大手日系企業が進出して行くと思う	特殊産業用機械製造業

	が、現地調達が進めば日本国内の仕事は今以上に厳しくなると思う。成形製品の動向としては、先月同様、自動車関係の受注が減少しており、先行きは不透明な状況が続くそう。	
輸送機器	車両、精密加工業種とも、好転の材料が見出せないでいる。春先まで現状の低迷状況が続く見通しで、市場が動き出すまで数か月を要すると予想される。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	政権交代による好転に期待している。	各種商品卸売業 柳井市
	各業種とも売上、利益とも低調で厳しい状況で推移しているが、11月下旬から12月は売上が若干の増加傾向にある。平成25年1月以降は、個人消費の低迷、雇用の悪化、日中関係の悪化等の影響が残り、先行き不透明感が強い。政界の動向に大いに期待している。	各種商品卸売業 周南市
	団地内の事業所内には、倉庫を増やし、事業を増やしているところも出ている。	各種商品卸売業 防府市
	3年ぶりの解散総選挙。政権交代による景気対策に期待している。また、年末商品の売上増を期待している。	各種商品卸売業 山口市
	各業種とも売上減、利益減の厳しい状況が続いており、一般経費及び固定経費の削減に努めている。	各種商品卸売業 下関市
小売業	12月は各メーカーとも売上コンテストや、限定品の発売等で売上を上げる。S社は、前年比130%の目標で、県内11店が目標を達成し、成果がでていいる。しかし、年末までは人の動きは良いが、年明けからは人の動きが鈍くなるのではないかと心配をしている。	化粧品小売業
	年の瀬の売買は、以前ほど動いておらず、依然厳しい状態。平成25年には明るいニュースがあれば良いと期待している。	中古品小売業
	百貨店閉店の発表以来、低調が続いているが、年末セールも低調であった。	各種商品小売業 周南市
	寒波にも関わらず、取扱件数・金額とも、前年同月比でプラスとなった。この要因は、1月に入って分析したい。	各種商品小売業 山口市
	平成23年に大型電機店がオープンしており、平成23年はかなりの来客があった。平成24年は、全体売上及び客数ともに平成23年をかなり下回る状況となっている。	各種商品小売業 長門市
商店街	平成24年から空き店舗は減少しており、商店街全体としての売上は増加しているが、個々の店舗は逆に売上が減少している。引き続き飲食店が増加して	山口市

	<p>いるので、既存の飲食店にとっては脅威となっているが、選択肢が増えた遠来客にとってはメリットとなっている。近隣店が多い状態が続くと、共倒れもありうる。</p>	
	<p>歳末の盛り上がりは無い。高齢化がどんどん進み、人口が減少している。郊外の大型ディスカウント店、ドラッグストアの攻勢により、消費者から商店街が忘れ去られそうに感じる年末であった。</p>	萩市
サービス業	<p>美容業の活性化の為、マナーや礼儀を習う「和の会」を発足している。これにより組合員の意識が高まり、営業に役立てば良いと思っている。また、政権交代によるデフレの脱却を望んでいる。</p>	美容業
	<p>引続き組合員の業況は悪い。政権交代でデフレ脱却をお願いしたい。社会全体が元気にならないと、自分たちの業界だけでは良い方向に向かわない。現在は、業界全体が低調である。</p>	理容業
	<p>10月の車検台数が、昨年、一昨年と比較して1割程度増加している。これは3年前のエコカー購入補助金の導入による新車が車検時期を迎えたものであるが、ほとんどが購入販売店で車検を受けており、車検依存率の高い整備専門工場にとっては厳しい状況が続いている。</p>	自動車整備業
	<p>安倍政権発足後、株価の上昇で地域経済が上向くかと思われたが、本業界は相変わらず厳しい状況が続いている。平成26年度は、エコカー補助金の終了で自動車メーカーの国内販売台数は減少するとの話もあり厳しい年となりそうであるが、公共投資の増加により建設機械、トラック等が動き出せば少しは明るい材料になる。</p>	
	<p>どんどん経営持続がきびしい状況になっている。新しいビジネスの模索をしているが、直ぐに結果が出ない。しかし、自分で限界を決めず、自分ではできると信じて、これからもがんばりたい。</p>	情報サービス業 宇部市
	<p>引き続き業界的には厳しい状況ではあるが、代替需要等が徐々に始めている。まだまだ投資マインドが冷え込んでいるのか積極的な話はない。</p>	情報サービス業 萩市
	<p>特に変化は無い。</p>	屋外広告業

	<p>業況は不況のまま変わらない。じわじわと末期が近づいている感がある。12月の前半は総選挙の影響で全く客の来ない日（いわゆるお茶引き）もあったが、後半自民党の圧勝もあってか最悪な状態は免れたようすである。しかしながら、1年を振り返って見ると、景気回復の兆しさえデフレに押し潰された年であった様に思う。真綿で首を絞められるようなという表現があるが、正にじわじわと終焉に向け、もがき苦しんでいるのが飲食業の現状。</p> <p>政権交代により、景気対策が第一に取り上げられたのは大変心強い。業界の味方が現れた思いだが、インフレによるデフレ脱却のために、消費増税同様、まず先にやらなければならない事は、零細企業や消費者の可処分所得の創造、豊かさの実感である。昔のままの再生の仕方（借金による予算編成）では、グローバルな経済活動に逆行していると言わざるをえない。末期症状の患者にIPS細胞による再生医療の可能性を説くようなもので間に合うか間に合わないのかが問われている。</p> <p>国の景気対策は姿勢が示された。県の独自性（オリジナル）については、「安心・安全力の確保」と「産業力・観光力の増強」をどのようにリンクさせるか、来年度予算に期待する。</p> <p>岩国錦帯橋空港が12月に開港し、まずまずのすべりだしをみせているが、景気低迷を払拭したとは言い難い。</p> <p>安倍政権のインフレ政策は、円安、株高に現れたが、円安は、食材料・エネルギー価格等の上昇が、経営にとってはコスト高を招き、経営のマイナス要因にならないか、不安感を募らせている。</p>	飲食業
	<p>対前年同月比では▲4%。組合事務所に観光案内所を併設し、年中無休体制で対応しているが、最近、電話の問合せや、訪問客数が激減している。</p>	旅館業 萩市
	<p>例年に比べ出足は鈍く心配する声が多かったが、後半になり持ち直し、日帰り客は、唐戸地区の観光に集中していた。購買意欲が増す雰囲気になってきたようで、お土産を購入する金額が徐々に増えている。売れ筋は、相変わらず低価格商品が多いが、高額商品も少し持ち直してきている。しかし、年末年始の間で、お正月の元旦のみが良かったという施設もある。年末・年始だからといって、以前のように高額商品を選ぶとは限らず、以前の購入価格に戻るにはまだ時間がかかる模様。海外に行く方々に、国内旅行を選んでいただけるような仕組みの必要性を感じ</p>	旅館業 下関市

	る。	
建設業	物件の見積件数は微増。工事量も年末までは確保できた様子であるが、価格の面は、ゼネコンの低価格競争の巻き添えで、上昇の兆しが見えない。	鉄骨工事業
	中電への工事申請 1 1 月 3 0 4 件（当支部分 2 6 3 件）、前年同月 2 9 1 件（同 2 2 4 件）。太陽光発電への申請 4 6 件、オール電化申請 2 6 件（前年は太陽光 2 9 件、オール電化 3 2 件）。LED 街路灯への切替・新設申請は 2 2 件（前年は 5 8 件）。再生エネルギー買取の優遇の見直しにより、太陽光発電の申請は続いている。	電気工事業
	公共工事は依然として低調。市町の補正予算が出揃い、一部の市町で公共工事が多く含まれており、受注を期待している業者もいる。民間工事は、一部ではあるが、宅地開発の動きがあり、造成工事の発注が望まれる。	土木工事業 柳井市
	2 4 年 1 2 月の受注高は、対前年同月比で 5 7 %。今年度の累計は、対前年比で 8 0 %。	土木工事業 萩市
運輸業	1 1 月解散、1 2 月新政権の誕生と年末に向けて目まぐるしい中で、輸送量は減少し、前年同月比で 1 . 5 % 弱の減少となった。円安が続いているが、油価格の上昇が大きな懸念材料となりつつある。運賃は依然として据え置かれており、中小企業運送業者にとって益々経営圧迫の度が高くなってきた。油価格は 0 . 8 円の値上げ。	一般貨物自動車運送業 下松市
	1 2 月も前年同月を割り込んだ売上となった。海外輸出製品の落ち込みが輸送稼働に大きな影響を及ぼしているが、最近の円安傾向で多少の希望を抱くことができる。逆に、原油価格の上昇は、輸送業者にとっての不安材料となる。	一般貨物自動車運送業 防府市
	年末の繁忙期ということもあり、運送業界は荷動きが活発になってきている。特に、近年はスーパーマーケット等の小売店が元旦から営業していることによる影響や、お歳暮の影響などで、食品関係の輸送は年末に向けてさらに増加することが予想される。逆に製造業の輸送案件は、正月休みに向けて減少していくと思われる。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	1 2 月は政権交代の関係もあり、理論的には景気回復の期待を持つことが出来そうであるが、我々中小企業には疑問である。軽油は当面の円安により 1 0 : 1 0 9 ~ 1 1 2 円であるが、油価の値上がり等の先が読めない中、運送業界は事業維持に一生懸命で、必死の経営が続いており、景気回復を心より願っている。	一般貨物自動車運送業 下関市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲9.9%（11月1日～12月20日分）となり、6月以降の大幅な減少に歯止めがかからない。11月1日～30日分は▲9.7%の減少、12月1日～20日分は▲9.9%と、大幅な減少が続いている。当組合の取扱いは、光市，下松市，周南市，防府市の地域だが、特定の地域や得意先ではなく全体的に、利用枚数が大幅に低下、加えて利用単価も減少している状況。</p> <p>日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではないが、夜間の飲食店関係が激減しているようす。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。原油価格の上昇とも関連し上昇してきている。前年度値下がりしていたことや石油・石炭税が加わったこともあり、12月のタクシー会社の購入単価は前年比+13%となり、使用量が多くなるこの時期に、タクシー会社の負担がますます増加することになる。</p> <p>政権が交代し、株価が上昇しているようすだが、安定した景気回復につながるかどうか、今後の動向が大いに懸念される。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
--	--	-------------------